



ロシナンテス設立15周年 ～皆様への心からの御礼～



皆様方のご支援のおかげがありロシナンテスは創立から15年を迎えることができました。心から御礼を申し上げます。

ロシナンテス設立前夜

内戦下にあるスーダンの人たちの命を救うために医療支援活動を始めようという決意し、外務省を辞めたのが2005年1月でした。地元の北九州に戻り高校のラグビー部後輩の海原君に相談をし、放浪の旅でアフリカから帰国した霜田君（海原君と同期）に「もう一度俺と一緒にアフリカに行つてくれんか？」とお願いしたところ「はい」と短く答えてくれたのは桜の花咲く頃でした。

日本を出発する前には、仲間が集い、壮行会をしてくれました。私が決意表明のために書いた言葉は「初志貫徹」。今でもスーダンの人々のために、アフリカの人々の命を守るために、という気持ちは何ら変わっていません。なお、霜田君が書いた言葉は「見る前に翔べた」。霜田君の言葉の通り、我々は準備もそこそこスーダンへ旅立ちました。

スーダンで医療支援活動に専念し、日本での法人設立は海原君に任せきりでした。海原君が多くの方々に声をかけて協力してもらい、2006年にNPO法人ロシナンテスが設立されました。ロシナンテスという団体名は、私の尊敬する写真家である鈴木仁さんとの会話から生まれました。おれたちってちっぽけな存在でしかないよな、まるでロシナンテみたいだな。でも多くの仲間を集め、ロシナンテがロシナンテスになったら大きな力になるよな！」

ロシナンテはドンキホーテが騎乗するロバのような貧弱な馬の名前ですが、こんな会話からロシナンテスが誕生しました。

遠回り

【第25号】
認定NPO法人ロシナンテス 発行
〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL:093-521-6470
E-Mail:info@rocinantes.org
特定非営利活動法人ロシナンテス
ROCINANTES

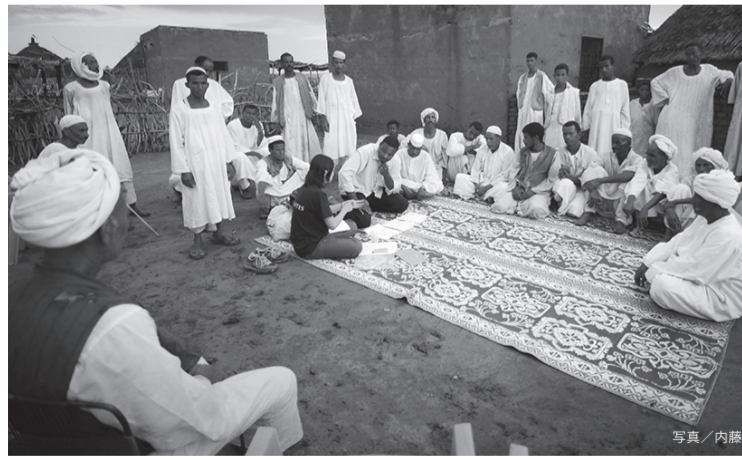
医療支援活動をとにかく早く行いたいという気持ちがあり、スーダンのルールに則らないこともありました。スーダン人のスタッフに支えられ、医療支援活動をしている地域の人たちに寝るところや食べ物を提供してもらい、さらに地方の政府の協力があり、支援活動を継続することができました。全ての方々に感謝です。

スーダンでは国際支援団体を管理監督する部署があり、厳しく指導されるたびに憎悪すら抱いた時期もありましたが、今では我々が組織として成長するための指導であったと考えられ、ときのスーダン政府にすら感謝の気持ちを持っています。

援助から協働へ

最初は私が一人の医師として、医療施設のない地域を巡回して回っていました。スーダンの保健省のスタッフと一緒に巡回診療を行うようになり、最後は彼らだけで運営できるようにして次の支援地へと活動の場を移してきました。

スーダンの電気がない、水道施設がないような地域では、医療のみでは命を救うことには限りがあることを感じました。きれいで安全な水の提供を行わないことには救える命も救えません。また、地域の人たちの方から医療に携わる人々を育てることは重要性も感じてきました。それから医療支援をする傍ら、水の事業や人材



育成にも力を注いでいます。

スーダンでは経済の悪化が人々の生活を苦しめ、それが原因となって国民のデモが広く行われ2019年に当時の政権が倒れました。治安の悪化があり、我々日本人スタッフの緊急避難を余儀なくされました。支援活動を中断せざるえない状況となり、我々のミッション、ビジョンを目指していく為に、スーダンと同じような問題を抱えたアフリカの国であるザンビアでの事業を2019年から開始しました。

ロシナンテスのミッション（使命）役割は、「病院が無いなどの理由で、必要な保健医療を受けられない地域に、医療が届く仕組みを整備することで、一人でも多くの命を救う。そして、誰もが健やかに生きることが出来る環境をつくる」です。

ビジョン（目指す将来像）は、「支援した地域の人たちが「医療」を自分たちのものとし、地域の人たちだけで医療を継続できる仕組みが根付いている世界です。

スーダン、ザンビアそしてアフリカの多くの人の命を救うために、仕組みをつくり、それが根付く世界を夢見て、今後はさらに深く考え活動をしなければなりません。

「初志貫徹」
志を立てたからには、それに向かって突き進むのみです。15年の間にその進み方も変わってきています。当初はがむしゃらに突っ走っていましたが、年齢を重ねるごとに昔のように走り回るばかりではなく、時には立ち止まって周囲を見渡し、一歩一歩確実に進むことも必要だと思ふようになってきました。そして、アフリカの地域住民の方々、日本で応援してくださっているの方々、そしてスタッフと一緒にチームロシナンテスを作り、ビジョンに向かって行動していきたいと思えます。

ロシナンテスのバリュー（活動理念）は以下の3つです。

目の前で困っている人を助ける。
家族の絆と地域の和を大切に。
ひとりりみんなの為に、みんなはひとりの為に！
大切に。
この15年間、本当に多くの方々を支えられてロシナンテスは歩んでこられました。これからもこれらの理念のもとに支援活動を継続させて参ります。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。本当にありがとうございます！

認定NPO法人ロシナンテス
理事長 川原尚行

育成にも力を注いでいます。

スーダンでは経済の悪化が人々の生活を苦しめ、それが原因となって国民のデモが広く行われ2019年に当時の政権が倒れました。治安の悪化があり、我々日本人スタッフの緊急避難を余儀なくされました。支援活動を中断せざるえない状況となり、我々のミッション、ビジョンを目指していく為に、スーダンと同じような問題を抱えたアフリカの国であるザンビアでの事業を2019年から開始しました。

ロシナンテスのミッション（使命）役割は、「病院が無いなどの理由で、必要な保健医療を受けられない地域に、医療が届く仕組みを整備することで、一人でも多くの命を救う。そして、誰もが健やかに生きることが出来る環境をつくる」です。

ビジョン（目指す将来像）は、「支援した地域の人たちが「医療」を自分たちのものとし、地域の人たちだけで医療を継続できる仕組みが根付いている世界です。

スーダン、ザンビアそしてアフリカの多くの人の命を救うために、仕組みをつくり、それが根付く世界を夢見て、今後はさらに深く考え活動をしなければなりません。

「初志貫徹」
志を立てたからには、それに向かって突き進むのみです。15年の間にその進み方も変わってきています。当初はがむしゃらに突っ走っていましたが、年齢を重ねるごとに昔のように走り回るばかりではなく、時には立ち止まって周囲を見渡し、一歩一歩確実に進むことも必要だと思ふようになってきました。そして、アフリカの地域住民の方々、日本で応援してくださっているの方々、そしてスタッフと一緒にチームロシナンテスを作り、ビジョンに向かって行動していきたいと思えます。



事務局だより

こんにちは、東京事務所の立花です。おかげさまでロシナンテスは、設立15周年を迎えることができました。ひとつの節目ということで、ここ数か月は、ご支援くださったことのある方にご連絡したり、設立当初のメンバーにお集まりいただいております。お話をうかがったり、過去の職員の方々にコメントをいただいたりと、これまでの15年間にどっぷり浸かる日々を過ごしてきました。改めて、本当にたくさんの方々の支えがあってここまで続けてきた組織なんだなあと感慨深く振り返っています。お会いできたすべての人々が積み重ねてきたものが今のロシナンテスで、一人でも欠けていたらまったく違う形になっていたかもしれないと考え、こうして変わらず会報を皆さまにお届けできていることに改めて背筋が伸びる思いです。これまで関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテスになれば、きっと何かできるはずだ！」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。

今後ともこれを信念として一歩一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

ロシナンテス応援企業

内科・外科・消化器内科・緩和ケア内科

岩本クリニック
理事長 岩本拓也

北九州市小倉南区中興一丁目20-50
TEL 093-472-1281
FAX 093-472-6712

がんばれロシナンテス!

税理士法人
小城会計事務所

北海道旭川市東光8条1丁目1-1
TEL.0166-31-2313

内科/消化器内科/リウマチ科

柏木内科医院
院長 柏木 陽一郎

〒802-0064 福岡県北九州市小倉北区片野2-21-10
tel 093-921-7943 / http://www.kashiwainaiika.com/

会報「遠回り」への
広告掲載で活動を応援して下さる
企業を募集しています。
お問い合わせは
ロシナンテスまでお願いいたします。

ご住所の変更はございませんか？

ご住所が変わった場合は下記のいずれかの方法でお知らせください。

A ホームページ
①ロシナンテスホームページへアクセス
②画面上部、「お問い合わせ」ボタンをクリック
③「メールフォーム」に以下の必要事項をご入力ください
・お名前・お名前(ふりがな)・メールアドレス・お電話番号
・お問い合わせ内容:旧住所と新住所をご入力ください
④「確認画面へ」を押下し、「送信」をクリックして送信

www.rocinantes.org

B メール

①ロシナンテス宛にメールをお送りください。
✉ info@rocinantes.org
②以下の各項目の記載をお願いいたします。
メール件名:「住所変更」
・お名前・お名前(ふりがな)
・旧住所・新住所

info@rocinantes.org

C お電話

①093-521-6470まで
お電話ください。
(電話受付:平日10:00~17:00)

093-521-6470

その他、お電話番号やメールアドレス等の各種変更についても、それぞれ変更前・後の情報を上記いずれかの方法にてお知らせください。
なお、クレジットカード・銀行口座のご変更に関しましては、別途お手続き方法をご案内いたしますので、ロシナンテスまでご連絡をお願いいたします。

ご住所の変更 お電話番号の変更 メールアドレスの変更
クレジットカードの変更 銀行口座の変更

各種情報変更のための専用ページをウェブサイト追加予定です。
ページが完成次第、また追ってお知らせいたします。

お手続きについてご不明な点等ございましたらお気軽にお問い合わせください
認定NPO法人ロシナンテス
TEL: 093-521-6470(電話受付:平日10:00-17:00) FAX:093-521-6471 ✉ info@rocinantes.org

クレジットカードによる寄付時の セキュリティコード認証導入のお知らせ

ロシナンテスでは、2021年3月より、クレジットカード決済の安全性向上のため、セキュリティコード認証を導入いたしました。セキュリティコード認証は、クレジットカードの不正利用防止対策を強化し、皆さまに、より安心してご利用いただくためのものです。

対象は、webサイトからクレジットカードによるご寄付を新たにお申し込みいただく場合です。導入前にお申し込み済みの毎月や毎年の寄付につきましては、改めてお手続きする必要はございません。

■セキュリティコードとは
クレジットカードの裏面に印字されている3桁の数字です。
数字が7桁で印字されている場合は、下3桁のみがセキュリティコードとなります。
【ご注意】American Expressは、カード前面に印字されている4桁の数字です。

※セキュリティコードの認証が必要な場面ではクレジットカードをお手元にご用意ください。

新しくロシナンテになったスタッフのご紹介

池田 裕美

公的機関での国際文化交流の仕事、マレーシア駐在、オーストラリアの大学院を経て、2月にロシナンテスに入職しました。スーダンの人々から学びつつ、一緒に「医」を届けるための仕組みづくりに貢献できればと思っています。よろしくお願ひいたします。

募金箱を設置いただける場所を募集しています

ご検討いただける方は、お問い合わせフォームよりご連絡ください。
※右記QRコードよりお電話での相談も受け付けています!
https://www.rocinantes.org/contact/

募金箱の設置にご協力いただいている辻医院様



母子保健事業再開

2月よりザンビアでの駐在を再開しました。これにより、2019年にザンビアで事業を開始して以来、現地での需要の調査や、関係者との協議に時間をかけて取り組んできたものの、昨年の春から新型コロナウイルスの影響で滞っていた事業も本格的に再開することができました。今年には主に、3つの柱で事業を進めていきます。

マザーシエルトー建設

1つ目は、過去の遠回りでもご紹介してきたマザーシエルトーの建設です。マザーシエルトーは、出産前後の妊産婦が待機し、安全に出産するための施設です。事業地であるムワブラ地域には簡易的な診療所（ヘルスポスト）があります。この診療所ではお産を取り扱っていますが、入院できる施設はありません。そのため、妊婦さんたちは、出産予定日に診療所に向かうしかありません。しかし、診療所が自宅から遠いことや、陣痛が始まってから移動する



住民が集めてくれた砂

1つ目は、過去の遠回りでもご紹介してきたマザーシエルトーの建設です。マザーシエルトーは、出産前後の妊産婦が待機し、安全に出産するための施設です。事業地であるムワブラ地域には簡易的な診療所（ヘルスポスト）があります。この診療所ではお産を取り扱っていますが、入院できる施設はありません。そのため、妊婦さんたちは、出産予定日に診療所に向かうしかありません。しかし、診療所が自宅から遠いことや、陣痛が始まってから移動する



計画について話し合うSMAGのメンバー

このマザーシエルトーの建設に際しては、早い段階から住民による建設委員会を設立しました。そして、地域住民から建設資材となる砂やレンガ、労働力を提供してもらい住民参加型のプロジェクトを目指しています。完成後には、住民自らの手で建設したという自覚を持って、大切に使用してもらおうことをねらいとしているためです。

地域住民とつむぎ

このマザーシエルトーには、妊産婦のための部屋だけではなく、付き添いで来ている家族が宿泊できる部屋や、診療所の職員が当直できる部屋、シャワー室やキッチンも含まれています。こうした村落部に暮らす妊産婦さんたちに、安心して出産できる環境を提供できるようにすることが望まれています。

また、ザンビアでも日本と同様、産後に検診が必要となりますが、待機できる施設がないため、出産直後に自宅に帰らざるを得ず、産後検診を受診していないお母さんたちが多くいます。

このマザーシエルトーには、妊産婦のための部屋だけではなく、付き添いで来ている家族が宿泊できる部屋や、診療所の職員が当直できる部屋、シャワー室やキッチンも含まれています。こうした村落部に暮らす妊産婦さんたちに、安心して出産できる環境を提供できるようにすることが望まれています。

ヘルスポランティアの育成

2つ目はSMAGと呼ばれるザンビアの農村地域のボランティアの育成及び活動の活性化です。SMAGは母子保健を担うザンビア政府が認めた資格を持つボランティアです。

医療施設でのスタッフの数が十分ではない地域においては、ボランティアが地域医療において重要な役割を果たしています。その一方で、活動の計画が不十分で、ボランティア間の課題認識が異なっている、活動の報告が保健局にきちんとなされていない等の課題も多くみられます。そのためロシナンテスで

3つ目は、事業地であるムワブラ診療所への小型エコーの導入です。ムワブラヘルスポストでは、「トノウベ聴診器」と呼ばれる伝統的な診療器具を使用して、妊婦の検診を行っています。これはお腹に筒状の器具をあて



新型コロナ対策をしつつ活動を実施

また、新型コロナウイルスの感染状況にもありますが、日本から母子保健の専門家を採用して、スキルアップの研修を行う予定です。この研修では、単なる日本からの知識移転ではなく、現地の需要を踏まえた研修を組み、現地の需要に沿った内容を作り上げていきます。更には、地域の保健局と協力し、新しいボランティアへの資格取得研修も行う予定です。こうした研修によってボランティアの質が向上し、ボランティアの人数も増えるため、地域の母子保健サービスが良い方向に向かっていくことを期待しています。

また、新型コロナウイルスの感染状況にもありますが、日本から母子保健の専門家を採用して、スキルアップの研修を行う予定です。この研修では、単なる日本からの知識移転ではなく、現地の需要を踏まえた研修を組み、現地の需要に沿った内容を作り上げていきます。更には、地域の保健局と協力し、新しいボランティアへの資格取得研修も行う予定です。こうした研修によってボランティアの質が向上し、ボランティアの人数も増えるため、地域の母子保健サービスが良い方向に向かっていくことを期待しています。



新型コロナ対策をしつつ活動を実施

おおよそ1年間の事業が滞っていたため、事業地の村の人々もロシナンテスの事業を気にしていた様子です。今年度は事業地の人々の期待に応えるべく、精一杯ザンビアでの事業に取り組んでいきたいと考えています。世界的な感染症流行中の事業展開は、様々な壁にぶつかりながらの活動になります。が、感染対策を講じながら最善を尽くしていきたいと思えます。

現在の建設図面が行政に承認され、建設を担当する業者との正式な契約に向けて調整を重ねている段階です。間もなく建設予定地の整地が始まり、順調に進めば10月には建設を完了し、マザーシエルトーとして使用開始できる予定になっています。予定日を迎える前に医療施設に滞在することが、妊婦の安心と安全に繋がることを願っています。

参加者のマスク着用の徹底化、できる限り少人数で行うことや、換気のできる場所で実施する等、今までの活動にはなかった感染対策を講じたうえでの実施となりました。

また、新型コロナウイルスの感染状況にもありますが、日本から母子保健の専門家を採用して、スキルアップの研修を行う予定です。この研修では、単なる日本からの知識移転ではなく、現地の需要を踏まえた研修を組み、現地の需要に沿った内容を作り上げていきます。更には、地域の保健局と協力し、新しいボランティアへの資格取得研修も行う予定です。こうした研修によってボランティアの質が向上し、ボランティアの人数も増えるため、地域の母子保健サービスが良い方向に向かっていくことを期待しています。

小型エコーの導入に際しては、寄贈および導入するだけではなく、当該エコーの使用経験のある日本人の産婦人科医師によって使用方法の研修を行い、技術移転を目指します。また、使用方法に関するテキストも使用者の意見を反映して用意することで、今後、ヘルスポスト職員が交代したり、新たな職員が配置されたりしたときにも継続してエコーの使用ができるように努めていきます。

は、ムワブラ地域のSMAG活動において、これまでの反省に基づくより実効性の高い計画への見直しと、保健局への報告という決められたプロセスをしっかりと行えるようにするためのサポートを行っています。この活動は3月から始動しており、まずはSMAGが自分たちの活動を振り返り、2021年の活動計画を立てることができました。

また、日々の長時間の停電が続いています。ラマダン（断食月）期間中の停電をできるだけ減らすため、例年ラマダン前は停電が多くなります。今年のラマダンは4月

現地通貨であるスーダンポンド（SDG）の下落が加速しており、2020年3月の1USD=117SDGから、2021年4月現在は1USD=400SDG近くとなっています。また、物価上昇も続いており、2月時点のインフレ率は前年比330%、飲食料品は266%だそう。タクシーを利用しても、スーパーで水や食料、日用品を見ても、毎度「高っ！」と小声で独り言をつぶやいてしまっています。全体的に見ると、退避前の2020年4月頃と比較して3〜4倍の価格水準という印象です。



ハフィール（ため池）改修事業の進捗

入国後の自主隔離期間を終えた3月に、水事業を予定しているハルツーム州ワッドシユウエイン村を訪問してきました。

スーダンの水事情とワッド・シユウエイン村での水事業の詳細については、遠回り23号でお伝えしておりますので、ぜひご参照ください。

ワッド・シユウエイン村では、河川のような表層水や地下水に恵まれず、ハフィールと呼ばれる雨



完全に干上がったハフィール



水貯水池の水を生活用水として利用しています。スーダンでは6〜9月頃が雨季で、この時期に貯まった雨水を雨期の間の生活用水として使っていくのですが、現状のハフィールでは地域の人々の1年分の生活用水には不十分で、数か月で干上がってしまう。干上がる時期は天候に左右されるため、年によって大きく異なります。先シーズンは2020年4月にハフィールの水がなくなりましたが、今シーズンは2020年12月頃に水がなくなりました。

以前の調査では、ハフィールの水が尽きた後は、他の村からくる給水車の水を、ハフィールの6〜7倍の金額で購入しているということでした。3月に訪問した際に再度確認すると、スーダンの経済悪化とガソリンなどの燃料不足の影響のためか、今はロバに乗り、周辺の村まで往復約15km、4時間かけて水汲みに行っているということでした。40度を超える気温と灼熱の日差しの中、水脈のない道のりを4時間かけて移動するということは、大変な重労働になります。

ワッド・シユウエイン村のハフィール改修事業では、貯水量を増やし、水質を改善することを目指しています。貯水量を増やすことで、給水車の水を購入することにより生じる経済的負担や、往復4時間の水くみという重労働を軽減することができそうです。また、現在ワッド・シユウエイン村で使われているハフィールには、動物の侵入を防ぐフェンスや、水を浄化するシステムがありません。そのため、動物の排泄物が混じった浄水されていらない水を飲むことで、慢性的な下痢など水が原因で起こる病気が発生しています。取水場所を動物と分け、現地でできる限りの浄水システムを導入することで、水質の改善を図っていきたいと思います。

また、重機を使ったハフィール掘削の工事に取り掛かる前の土壌調査のため、前回の訪問時に地域の人々に試掘をお願いしていました。暑い中、汗をかきながら少しづつ掘り進

また、重機を使ったハフィール掘削の工事に取り掛かる前の土壌調査のため、前回の訪問時に地域の人々に試掘をお願いしていました。暑い中、汗をかきながら少しづつ掘り進

水くみに往復4時間…厳しい乾季の状況

めてくださり、試掘ポイントには岩盤など掘削が困難な場所がないことが分かりました。これから関係する省庁、スーダン人の専門家、地域の人々とともに本格的な調査を開始していきます。



深く掘り、岩盤などが無いことを確かめました



厳しい生活にもかかわらず、訪れると必ずおもてなししてくれるスーダンの人々

駐在再開！最近のスーダンでの暮らし

新型コロナウイルスの影響で駐在員は2020年4月から日本に退避していましたが、2021年2月にスーダン駐在を再開しました。途上国での生活は、文化や生活習慣、国民の公衆衛生知識、感染症への考え方、医療環境と日本とは異なることが多く、駐在



停電中は懐中電灯とヘッドライトが大活躍！

員の再赴任へ向けて、団体内で安全管理や感染予防について協議を重ね、駐在再開に至りました。前号の遠回り24号で8か月ぶりのザンビア事務所へ、積み重ねたホコリや、事務所内にアリの巣まであったことなどをお伝えしていました。スーダン事務所でも砂やホコリがたくさん積もり、トイレや電子機器の不具合が多発しています。

リノイタマンに向けた停電中…

スーダン事務所は首都ハルツームにあり、下水道があるため水洗トイレですが、便器からの配管や便座はプラスチック製のため、高温で乾燥したスーダンの気候では経年劣化の進みが早く、水漏れや便座の割れがよく起こります。屋内でも数時間で砂が積もるような気候のため、プリンターやスキャナーといった電子機器の不具合も頻発です。

また、日々長時間の停電が続いています。ラマダン（断食月）期間中の停電をできるだけ減らすため、例年ラマダン前は停電が多くなります。今年のラマダンは4月

これまで何度かお伝えしてきましたが、経済状況の悪化も深刻です。

経済状況の悪化が市民生活に影響

現地通貨であるスーダンポンド（SDG）の下落が加速しており、2020年3月の1USD=117SDGから、2021年4月現在は1USD=400SDG近くとなっています。また、物価上昇も続いており、2月時点のインフレ率は前年比330%、飲食料品は266%だそう。タクシーを利用しても、スーパーで水や食料、日用品を見ても、毎度「高っ！」と小声で独り言をつぶやいてしまっています。全体的に見ると、退避前の2020年4月頃と比較して3〜4倍の価格水準という印象です。

小型エコーの導入に際しては、寄贈および導入するだけではなく、当該エコーの使用経験のある日本人の産婦人科医師によって使用方法の研修を行い、技術移転を目指します。また、使用方法に関するテキストも使用者の意見を反映して用意することで、今後、ヘルスポスト職員が交代したり、新たな職員が配置されたりしたときにも継続してエコーの使用ができるように努めていきます。



トラウベ聴診器

で、耳で胎児の心音を確認するものです。しかしながら、この器具での診察には精度的に難しさがあり、診療所の職員はリスクの高いケースの見落としを回避するために、上位医療機関での再診察や出産を勧めることが多くあります。結果的に、診療所で取り扱うことができない簡単な出産であっても上位の医療機関に送ることで、他の医療機関を圧迫させることになっていきます。また、遠くの病院に行くことで、妊婦にも交通費や宿泊等の経済的な負担が発生しています。

この小型エコーを導入することで、胎児の定期的検査、出産に関するリスクの有無を適切に見極められるようになり、安全な出産へとつ



ロシナンテス年表

目の前で苦しむ人びとを助けたい！ そしてロシナンテス設立へ



写真/内藤順司

2006 ロシナンテス設立、 スーダンでの 医療支援をスタート

診療の際には日本にあるような機材はもちろん使えない。聴診器一つで患者に触れ、五感を動かせる。診療するには、人として向き合い、信頼関係が大切だという医療の原点に立ち返る。



写真/内藤順司



写真/内藤順司

● **2005** 理事長の川原尚行が外務省を辞職
『目の前で困っている人を助けたい』肩書きも何もなくなった、たった一人の挑戦を助けてくれたのは高校時代の仲間たち。「ロシナンテ」が集まればきっと大きな力になるはず…と信じて、スーダンへ。

● **2006** シェリフ・ハサバツラ村での診療所運営
診療するためには、村人との信頼関係が大切なため、村人と寝食を共にした。

● **2007** シェリフ・ハサバツラ村で母子保健事業を開始
住民の基本調査から始め、妊婦検診や予防接種などを実施。

● **2008** キッズサッカーチームを開校
スーダンでは町中のあちこちでサッカーをしている子どもたちを見かける。ボールがなければ布きれを丸め、裸足で目を輝かせて空き地を駆けまわっている。人種や国境や宗教を超えて一つになれる。



写真/内藤順司

2008

2009

2011

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

● **シェリフ・ハサバツラ村の古井戸を改修**

● **小学校校舎を増築して女の子の学び場を提供**
学校に通えない村の女の子たち。男女がともに勉強をする習慣のないこの村には女子の学校がなかった。女の子たちも学校に通えれば、将来、診療所の看護師になる子どもがいるかもしれない。村人とともに女子学校の建設に奔走した。

● **スポーツ×歯科検診**
サッカー大会を開催しながら約1,000名の子供たちの歯科検診を行うスポーツを通じた健康増進プログラムを実施。日本人歯科医師の藤瀬先生と原田先生にご協力いただいた。

● **東日本大震災支援活動を開始**
被災者への巡回診療から始まり、がれき撤去やコミュニティ新聞の発行、寺子屋、健康農業事業などを実施。

● **ワツテルハティ村に井戸を建設**
井戸のない地域では不衛生な水を口にするため病気になる人も多い。そこで病気の根本的な原因を改善するため、壊れていた井戸を修復し井戸を設置。きれいな水が手に入られるようになった。



写真/内藤順司

● **ワッドアブサーレ区にて巡回診療事業を開始**
東京都とほぼ同じ面積に医療施設がひとつもなかったワッドアブサーレ区にて、2週間かけて29の村々を回る巡回診療のサポートを開始。



写真/内藤順司



● **熊本地震支援**
避難所での巡回診療を実施。担当していた避難所は高齢の方が多かったため、血圧を測ったり、体を動かすためのストレッチをしたりしながら診療を続けた。その後、診療中に聞いた困りごとを解決するため、田んぼの水路補修や地域のイベントのお手伝いなども実施。

● **アルセレリア村の古井戸改修完了**

● **「土とレンガの診療所プロジェクト」での3棟の診療所の建設完了**
巡回診療事業を実施してきたワッドアブサーレ区にて3棟の診療所を新たに建設。緊急対応や継続的な治療が可能になった。

● **アルテケラット村に井戸を建設**

● **ワッドシュウエイン村に学校併設のトイレを建設**



写真/内藤順司



写真/内藤順司



写真/内藤順司



改めて15年を振り返り、「初志貫徹」 思い浮かんだ言葉は

自分にできることは小さくても、仲間とともに、愚直にやっていきたいと思えます。

● **2020** スーダンのハフィール(ため池)改修プロジェクト、ザンビアのマザーシエルター(妊産婦の待機施設)建設プロジェクトの再開。

● **新型コロナウイルス対策の支援を実施**
スーダンのハフィール(ため池)改修プロジェクト、ザンビアのマザーシエルター(妊産婦の待機施設)建設プロジェクトが、新型コロナウイルスの影響で延期に。



写真/内藤順司

● **サングラスの寄贈を受け、白内障の患者さんへの配布事業を実施**

● **ザンビアで活動を開始**
ザンビアの村落部では、診療所まで歩いて何時間もかかる地域が多く、家で出産したり、診療所に向かう途中で出産したりするケースが多い。こうした状況を改善し、施設での安全なお産を増やすことを目指して活動を開始。

● **オンムサマーマ村に井戸を建設**



写真/内藤順司



写真/内藤順司

設立15周年を迎えるにあたり、ここまでロシナンテスを育ててくださった元スタッフの皆さまからコメントをいただきました。

海原 六郎様 [写真1]
光陰矢の如し、振り返ればあっという間の15年間でした。これから更なる活動ができるよう川原理事長にはくれぐれもお身体を大切にしてください。ご活躍を祈ります。

霜田 治喜様 [写真2]
始めた当時は、まったく先の分らない手探り状態でしたが、今では団体もしっかり組織され、事業規模も大きくなりました。ここまでロシナンテスを育ててくれた、今まで関わって頂いたたくさんの方に感謝します。

岩間 邦夫様 [写真3]
歴史は、きざまれていくのですね。その一助になれたことが自分の誇りです。今後の歩みにも期待しています。

アルタイプ 茜様 [写真4]
15周年おめでとうございます。20年、30年と皆さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます！

田中 三千太郎様 [写真5]
おめでとうございます！



写真/内藤順司

大嶋 一馬様 [写真6]
継続は力なり。15年が経過します。ますます成熟したことを思います。その力を遺憾なく発揮していただくことを期待します。

沼井 茜様 [写真7]
川原さんが大切にされている「地元の人たちと関係を築き、共に活動をする」という行動原理のもと東北で活動をし、気づけば東北の方々と心通わせる「仲間」になっていました。これからも、ロシナンテスが「多くの笑顔と豊かな心を育む」土壌となることを祈っております。

田才 諒哉様 [写真8]
これからの活動も応援しています！

渡邊 周介様 [写真9]
おめでとうございます！次の15年、どんな風になるのか予想もできませんが、世界中の人たちの役に立っていることと思います！

令官 洋子様 [写真10]
Happy 15th Birthday Rocci! 嬉しいです。どこまでも、行け！ロシナンテス!!

堺 遥様 [写真11]
今後も信頼を大切にしながら動き続けていただけたらと思います。応援しています。

宮崎 理恵様 [写真12]
15周年おめでとうございます！北九州からスーダン、今やザンビアも展開されて、ロシナンテスの輪がどんどん大きくなってきていますね～！これからも応援しております！





EVENT REPORT

15周年記念企画オンラインイベント

15th Anniversary Online Event

夫・川原尚行、父・川原尚行とは

日程：2021年4月10日(土)

ゲスト：川原佳代さん(川原尚行の妻、小学校教員)、他

「アフリカで医療官をやろう」「外務省を辞めて、現地の人たちのためにできることをしよう」「NGOを立ち上げよう」こうした数々の決断と行動には、家族を支える妻・佳代さんの支えが不可欠でした。外務省辞職直後は佳代さんが子育てと並行して就職し、川原が扶養に入るなど、家族の形の変化は本当に大きなものだったそう。「これからは飯と味噌汁、食パンしか食べない」という貧乏宣言に対し、「大好きな菓子パンが食べられない」と反感を覚えたという長男・健太郎さんのお話など、様々な決断やアフリカと日本を行き来する生活がご家族の目にどう映っていたのか、興味深いお話を聴くことができました。

参加者の事後アンケートより「印象に残った話」

- 子どもたち三人分の人生を楽しませてもらったと言う、妻佳代さんのコメント
- 外務省を辞められた際の貧乏宣言
- 個々の存在を大切に個々の人生を支え合っているのが印象的だった
- 息子・健太郎さんの「今を生きる」が良かった
- 「どこだろうが単身赴任は同じ。たまたま単身赴任先がアフリカだっただけ」という妻佳代さんの言葉

「さださんにとっての社会貢献」を聴く

日程：2021年4月10日(土)

ゲスト：さだまさしさん(シンガー・ソングライター、小説家)

ご自身でも被災地のボランティアやへき地医療に取り組む人々を支援する「風に立つライオン基金」を設立され、様々な形で社会貢献活動を行っていらっしゃるさだまさしさん。国際協力や社会貢献への想いや、活動の原点などをお伺いしました。「風に立つライオン」の楽曲完成までに15年かかったというさださんのアフリカへの想いや、完成後に実際にアフリカに行って感じた「風」のエピソード、被災地で「音楽は無力ではなかった」と感じられた瞬間、寄付のたすきがつながったお話など、たっぷりお伺いすることができました。

参加者の事後アンケートより「印象に残った話」

- 被災地で集まった義援金が、次の地へ運ばれて、またそこで集まった寄付が次へと続く様子に感動しました
- お二人の想いが核になって、新たにさまざまな活動が生まれているエピソード

- さださんの「風に立つライオン」に対する思い入れの深さ!
- 「アフリカが体に入るまでに15年かかった」という話

ロシナンテスを通して知る NGOキャリア

日程：2021年4月19日(月)

登壇：川原・駐在職員・インターン

インターン4名が中心となり立ち上げた本企画。NGOを立ち上げた川原、現地で活動している駐在員に、学生ならではの視点で気になることをいろいろと質問しました。アフリカで働くのは、何が楽しくて何が大変なのか、家族の理解はどうやって得たのか、またローカルスタッフとの感動エピソードなど、現地で働くならでの話で盛り上がりました。またスーダン・ザンビアそれぞれのローカルスタッフから、仕事にかける想いや国際協力を志す皆さんへのメッセージを伝える動画も共有されました。

参加者の事後アンケートより「印象に残った話」

- 現地スタッフの方の1日や生活に関するお話
- 現地で働いている現地スタッフの生の声を聴けたこと
- インターンの方々が主体で行っていたこと
- 海外で暮らす私たちのようなものにも間接的に恩恵をもたらす活動だと感じられた



多くの女性たちが、地帯の人々が想いを込めてお話をしています。

外国人との共生を考える

日程：2021年4月22日(木)

ゲスト：和田牧子さん(日本語教師、やさしい日本語講師)

様々な想いをもって応援してくださっているご支援者の皆さまと改めて出会いなおし、これからも相互に関わりあいながら進んでいきたいと考え、ご支援者の皆さまの中から対談相手を募集した本企画。対談することになったのは、日本語教師や「やさしい日本語」の講師として、外国人とのよりよい共生を目指す和田さんです。日本人が気付きにくい「やさしい日本語」の意義や、少子高齢化の進む日本が外国人とどう向き合っているのか、

15周年を記念し、各回異なるゲストを迎え、理事長の川原がお話をお伺いする対談企画をオンライン(インターネット)で実施しました。

いくべきかなど、考えさせられる対談となりました。

参加者の事後アンケートより「印象に残った話」

- 日本の社会全体がひとつのゴールにむかうということだけを刷り込まれて今まで来ていて、変化に対してとても弱い、という指摘
- 自分自身がマイノリティという立場でものを考えられるかというお話
- やさしい日本語にすると、主語が必要だというお話
- 外国の方と接する機会が多くなると、日本人は、これから大丈夫なのか、と思うこと

組織としての社会貢献

日程：2021年4月28日(水)

ゲスト：ハローデイ株式会社、魚町商店街振興組合、トップ保険サービス株式会社

ロシナンテスの拠点でもある福岡県北九州市で様々な社会貢献活動を行う企業・組織の皆さまをお招きし、座談会形式で開催しました。SDGsを商店街と顧客の共通言語とし、地域の課題解決を目指す魚町商店街振興組合さん、「スマイル推進チーム」を作り、トップダウンでなく社員それぞれが考え参加する社風を作り上げているトップ保険サービスさん、倒産の危機を乗り越えて社会貢献活動に力を入れ始め、数々のユニークな取り組みを行うハローデイさんの3組織にご登壇いただき、それぞれの取り組みとその想い、そして地域の未来についてお話ししました。

イベントの動画を一時公開します

それぞれ5月下旬に数日間YouTubeでご覧いただける日を設ける予定です。ご希望の方はメールでURLをお知らせいたしますので、下記よりお申し込みください!(すべてのイベントのURLをまとめてお送りします。5/15までにメールが到着しない場合には、大変お手数ですが事務局までお知らせください。)

メールでお申し込みの場合は↓
 info@rocinantes.org
 件名「イベント動画閲覧希望」
 メール本文に以下の項目のご記載をお願いいたします。
 ①お名前 ②電話番号 ③メールアドレス



**イベント動画
閲覧希望
申込フォーム**

https://forms.gle/WgCQDZbG1PZBmEeD9

東北への想い、そして現地からのお手紙

東日本大震災から10年が経過しました。東北でお世話になった方々に「挨拶に伺いたかったのですが、このような状況の中自粛せざるをえないと考え、東北の方々に気持ちだけでも想いを寄せたいと思いました。」

2月の地震の後、1本のお電話が：

2月に東北で大きな地震がありました。このニュースを見ながら大事に至らないことを祈っていました。幸いにも犠牲者が一人も出ずに心を落ち着けていました。しばらくして互理にいらっしやる健康農業の参加者であった三戸部長三さんから電話がかかってきました。先日の地震で10年前のことを思い出すほどに怖かったこと、さらにマコミから取材を受けている時に当時は思い出し、たまらない気持ちになってしまつて私に電話をかけたことでした。10年経過しても、簡単には心の傷は癒えないのです。

震災から10年、三戸部さんには常に挑戦するよう励ましてきました。震災以来、海を見るのが怖いという三戸部さんに、「一緒に海を見に行きましょう」と堤防を駆け上がったことがあります。海を見ることができて、大きな区切りができました」と言ってくれた時には私たちも一緒に喜んだものです。唱歌である「故郷」を悲しみのあまり歌うことができたことも仰っていました。我々とともにいるうちに、「故郷」も歌えるようになりまし。そして、初めての海外となるスーダンにもお連れし、得意の尺八を演奏してもらいました。このように三戸部さんが大きな挑戦を成し遂げる姿を見て、心の底から「生きるって素晴らしい」と感じてきました。

自宅は全壊で5月に解体をしました。会社の同僚からはこの時期の顔は生気が無く精神的につらいだろうと思つたそうです。実際その通りでした。2012年3月で退職をしました。どこに家を再建するか悩みに悩みました。用事で互理町に行つてから仙台市に帰ることに抵抗がありました。やっぱり互理町に行くのではなく帰るが私の人生だと思ひ互理町に再建を家族と相談をして決めました。

2012年9月末、1年6か月いた仙台の社宅から互理町の公共ゾーン仮設住宅に入居しました。そして12月に仮設住宅に、こんなチラシが入りました。

NPO法人ロシナンテスとの出会い、「食べて！動いて！元気になっちゃー！互理いちご畑」の参加募集です。

震災で畑の野菜栽培をやめて2年。また野菜づくりができるとすぐに参加を決めました。

震災から10年です。この10年を振り返つてみました。1年目は心身ともにどん底でした。

私には全壊で5月に解体をしました。会社の同僚からはこの時期の顔は生気が無く精神的につらいだろうと思つたそうです。実際その通りでした。2012年3月で退職をしました。どこに家を再建するか悩みに悩みました。用事で互理町に行つてから仙台市に帰ることに抵抗がありました。やっぱり互理町に行くのではなく帰るが私の人生だと思ひ互理町に再建を家族と相談をして決めました。

多くの人の支援が私たちに復興の力を与えてくれました。誰も見向きをしなかったら私たちは笑顔を取り戻すことはなかったと思います。私たちの力ではここまで立ち直りませんでした。でもまだ震災の心の傷は癒えていないです。

被災した中学生が「えんごろ節」を歌うので尺八で伴奏しませんかとのお誘いでした。震災で世界中から多くの支援を頂いたので、そのお礼をしたいし、負けない姿をみてほしい、日本文化の紹介できる、川原先生の活動をこの目で見られる、スーダンを知りたいと大きな期待で一杯でした。アフリカの大地は雄大で期待通りの旅でした。スーダンのとりこになりました。オルワン村

私にとってロシナンテスの活動は心の復興の大きな力になったことです。メンバーの中には同じ荒浜でも初めてお会いする方もいました。毎週会つて活動をして一緒に昼ご飯を食べる話題は尽きません。そして少しずつ笑顔が戻ってきました。私たちがらすると子供や孫の世代のスタッフの皆さんは本当によくお世話をしてくれました。

2017年から毎年3月11日にこの尺八で荒浜の鎮魂の碑の前で犠牲者に「江差追分」の献奏をしています。

復興期の互理町は国の復興予算なのでいろいろな制約がありますが、もう少し被災住民の意見も聞いても良かったのではと思います。箱ものは目立ちますが震災前以上の物もあるような気がします。維持管理費のことも考えなくてはいいと思います。

荒浜地区では人口減少が大きな問題です。

最近、荒浜でも売地の看板が目立つようになりまし。実は我が家の土地も看板が立っています。10年を迎え苦渋の決断を

しました。まだ本籍を残しています。お迎えは来た時、荒浜に住んでいたと証を残したくそのままにしています。その後は子供たちに任せようと思います。

これは被災地は。私には被災地を離れました。今、もとの町内会の人と会うと話が続きます。知人の消息が多いです。苦痛とまではいきませんが話題がないのです。10年は短いと思いますが長く感じることもあります。

復興とは？と聞かれたとき私は今住んでいる場所で、私の存在感が認められることだとお話をします。そこは被災者の私ではありません。

3年前前に「つまで被災者支援なんだろうね」と私にお話をしていた知り合いました。私が被災者だと認識していると思っていました。私

この10年を振り返つてみました。1年目は心身ともにどん底でした。

私には全壊で5月に解体をしました。会社の同僚からはこの時期の顔は生気が無く精神的につらいだろうと思つたそうです。実際その通りでした。2012年3月で退職をしました。どこに家を再建するか悩みに悩みました。用事で互理町に行つてから仙台市に帰ることに抵抗がありました。やっぱり互理町に行くのではなく帰るが私の人生だと思ひ互理町に再建を家族と相談をして決めました。

2月13日の震災の余震で互理町も震度6弱に見舞われまし。被害報道をテレビで見ているら、突然とめどなく涙が溢れてしまい止まらなくなりました。そして川原先生からメールを頂いたことを思い出し思わず電話をしました。電話をしたことで落ち着きました。本当にびつくりしました。初めての経験です。震災がフラッシュバックしたようです。思えば震災当時は悲しい、悔しい、虚脱感とかがいつぱいあつたはずなのに涙を流した記憶はありません。ただ食事できることが嬉しいだけで感情が無い生活をしていたように思えます。今でも頭の中身の半分は震災のことで埋まっています。しかし家内は半分以上だと話しています。家内は今でも荒浜の海を見ることが無いし、震災関連の報道もほとんど見ることはありません。

復興期とは？と聞かれたとき私は今住んでいる場所で、私の存在感が認められることだとお話をします。そこは被災者の私ではありません。

3年前前に「つまで被災者支援なんだろうね」と私にお話をしていた知り合いました。私が被災者だと認識していると思っていました。私

この10年を振り返つてみました。1年目は心身ともにどん底でした。

私には全壊で5月に解体をしました。会社の同僚からはこの時期の顔は生気が無く精神的につらいだろうと思つたそうです。実際その通りでした。2012年3月で退職をしました。どこに家を再建するか悩みに悩みました。用事で互理町に行つてから仙台市に帰ることに抵抗がありました。やっぱり互理町に行くのではなく帰るが私の人生だと思ひ互理町に再建を家族と相談をして決めました。

2月13日の震災の余震で互理町も震度6弱に見舞われまし。被害報道をテレビで見ているら、突然とめどなく涙が溢れてしまい止まらなくなりました。そして川原先生からメールを頂いたことを思い出し思わず電話をしました。電話をしたことで落ち着きました。本当にびつくりしました。初めての経験です。震災がフラッシュバックしたようです。思えば震災当時は悲しい、悔しい、虚脱感とかがいつぱいあつたはずなのに涙を流した記憶はありません。ただ食事できることが嬉しいだけで感情が無い生活をしていたように思えます。今でも頭の中身の半分は震災のことで埋まっています。しかし家内は半分以上だと話しています。家内は今でも荒浜の海を見ることが無いし、震災関連の報道もほとんど見ることはありません。

復興期とは？と聞かれたとき私は今住んでいる場所で、私の存在感が認められることだとお話をします。そこは被災者の私ではありません。

3年前前に「つまで被災者支援なんだろうね」と私にお話をしていた知り合いました。私が被災者だと認識していると思っていました。私

この10年を振り返つてみました。1年目は心身ともにどん底でした。

私には全壊で5月に解体をしました。会社の同僚からはこの時期の顔は生気が無く精神的につらいだろうと思つたそうです。実際その通りでした。2012年3月で退職をしました。どこに家を再建するか悩みに悩みました。用事で互理町に行つてから仙台市に帰ることに抵抗がありました。やっぱり互理町に行くのではなく帰るが私の人生だと思ひ互理町に再建を家族と相談をして決めました。